

B型肝炎ワクチンの接種について

B型肝炎の予防接種を実施するに当たって、受けられる方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため、裏面の予診票にできるだけ詳しくご記入ください。ご高齢もしくは未成年者の方などでご自身での記入が難しい方が接種を希望されている場合には、健康状態をよく把握しているご家族など代理人の方がご記入ください。なお、原則として接種される方の接種希望確認ができない場合は接種できませんので予めご了承ください。

(I) 接種対象について

B型肝炎ウイルス保有者(特に HBe 抗原陽性者)の体液(特に血液)に接触する可能性が高い方は、あらかじめB型肝炎ワクチンを接種して、免疫をつけておくことが勧められています。接種に際しては、あらかじめ被接種者の HBs 抗原、HBs 抗体を測定し、両方ともに陰性の方に対して接種します。

(II) 接種時期について

年間を通じて接種できます。一般的に3回接種することにより免疫を獲得できる確率が高まることが知られているため、接種は原則として3回(初回、1ヶ月目、6ヶ月目)行います。

【接種が不適当な方(予防接種を受けることが適当でない方)】

次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を受けてはいけません。

1. 明らかな発熱を呈している方。
2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
3. B型肝炎ワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方。
4. 上記にあげる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方。

【他のワクチンとの接種間隔】

生ワクチンの接種を受けた方は、通常 27 日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた方は、通常 6 日以上間隔を置いて B 型肝炎ワクチンを接種してください。

【接種を受けるときの注意】

1. からだの具体の悪いときは接種を受けないでください。
2. 接種を受ける日に、必ず体温を計っておいてください。

【接種後の注意】

1. 接種当日は激しい運動を避けてください。(接種当日の入浴は差し支えありません。ただし注射したところをこすらないでください。)
2. 接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。
3. 接種後は自らの健康管理に注意し、もし、高熱や体調の変化、その他局所の異常反応に気づいた場合は、ただちに医師の診療をうけてください。